

TECH未来通信 2022.DEC VOL.055



〒184-8501 東京都小金井市貴井北町4-1-1
東京学芸大学内20周年記念飯島同窓会館1階
042-316-6645 info@techmirai.jp

TECH未来を使ってきた先生方(その33)

愛知県でのTECH未来

ー現在、教員何年目ですか？

10年目です。

ーTECH未来を使用して何年目ですか？

3年目です。

ー具体的にTECH未来を使ってこれまでにどのような授業を実践してきましたか？

「未来を創る自動車を作ろう」という学習課題を基に、TECH未来を使用して最適な自動車モデルを製作させる課題解決に取り組ませました。生徒が何度も試行錯誤することができるよう、自動車モデルを傾斜のあるコースを走行できることを条件として取り組ませたり、他者(同じ生産者の立場であるが異なる課題に取り組んできた生徒や消費者としての保護者)との対話活動を行ったりしました。

さらに、生産者としての視点や発想に気付かせるために、会社と見立てた班で話し合い、自動車モデルを製作させました。

ー今回、TECH未来を活用した授業を研究してみていかがでしたか？(生徒さんの反応など)

TECH未来は、動力伝達で使用する基本的なパーツの種類が豊富で、自動車モデルを製作する際に試行錯誤

させることができた。ある会社(班)は、未来を創る自動車が「2階建ての車」と考え自動車モデルを製作したが、傾斜を登ること



ができませんでした。その結果、歯車の組み合わせを考えたり、パーツの数を減らしたりするなど何度も作り直し、より良いモデルを求め続けさせることができました。

また、ある会社(班)は、未来を創る自動車が「良い匂いがする車」と考え、製作した自動車モデルに香水をつけて匂いを付けていました。このように、TECH未来を使用することで、生徒たちの構想を活かし、表現することができたと考えます。

ー今後TECH未来でどんなことをしてみたいですか？

班ごとに違う遊園地の遊具のモデルを製作し、クラスの「テーマパーク」を作らせてみたいです。

ー最後に一言！

これからも生徒の発想や思考を大切にして課題解決学習に取り組ませ、様々な価値観をもった生徒を育てたいです。

編集後記

研究大会では、生徒たちが未来のありたい姿を想像ながら、自動車モデルを製作する様子が印象的でした！ありがとうございました！